

東京大学の学長が4月1日付で、浜田純一氏から五神真氏（現理学部長）に交代する。五神新学長に学長就任の抱負を寄稿してもらった。

東大 二こう変える



五神 真

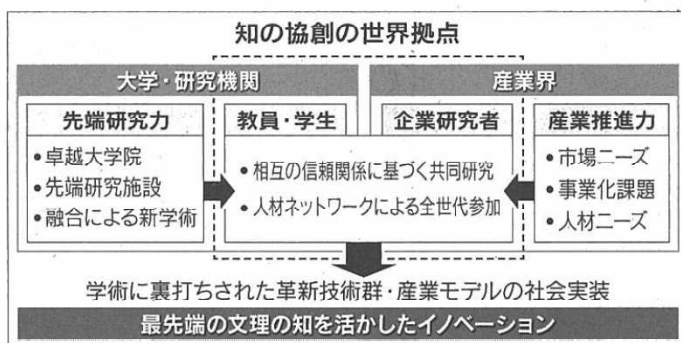
東京大学新学長

に常時アクセスすることも可能にした。

一方で、資源の枯渇、環境破壊、世界金融不安、同時多発テロ、地域間の格差・貧困、少子・高齢化など、地球規模の課題が深刻化し、人類社会そのものの持続性が脅かされている。これらは、個々の国で対処することが困難であり、様々な地域の人々が多様な知恵を持ち寄り、その中から解決策を探り、共に行動することが必要である。

20世紀、自然科学はあらゆる分野で飛躍的な展開を示し、高品質な商品を提供するオートメーション技術、ジェット機や超高速鉄道、さらには衛星通信やインターネット等の革新技術が生まれ、社会を大きく変貌させた。その結果、人々の活動は国境を越え、世界を飛び交う膨大な情報を

知の創造へ大学院強化



値を生産し、大勢の人々が使えるようにする仕掛けが必要である。これは同時に、人々が求める新たな需要を顕在化させ、結果として経済成長や産業強化に貢献するものとなる。この仕組みを作ることが科学技術イノベーションの本質である。

この10年間で修士課程から博士課程への進学率は16%も低下した。国立大学の法人化以降研究費が基盤的経費から競争的資金へと傾斜する中で、若手研究者の大半が不安定な任期付き雇用となったことが大きな要因であるが、大学院が博士人材を多様なキャリアに導

修士・博士一貫コース ■ 産学連携 活発に

教育システムとして十分機能していないことも一因であろう。こうした認識のもと、就任後は早急に次の2つのことに取り組みたい。第1は、卓越性、国際性、学際融合をキーワードとした「国際卓越大学院」の創設である。物理学、化学、生命科学など、東京大学が学術研究において世界をリードしている分野に加え、サステナビリティ学、ジェントロロジー、フォトンサイエンス、バイオエンジニアリングなどの学際領域にも着目し、修士・博士一貫の学位プログラム制大学院コースを創設し、大学院の教育機能の強化を図る。

世界市場からの優秀な若者に加え、企業や研究機関等に所属している優秀な若手を取り込む。教員は国際公募や年俸制を積極的に取り入れ、卓越性と国際性を高める。さらに、日本の社会の活力回復に向け、即戦力となる社会人のパワーアップの場としても活用する。例えば、共同研究などの産学連携活動と効果的に組み合わせ、企業で活躍している優秀な社会人が、学位プログラムの中を歩み出す。この拠点は、先ず卓越大学院で学ぶ学生達の活動フィールドとしても最適であり、両者を密に連携させる。

等々を積極的に進めたい。それらによって、課題解決に貢献しつつ、強固な信頼関係に基づく本気の産学協働を実践する場を生み出す。この拠点は、先ず卓越大学院で学ぶ学生達の活動フィールドとしても最適であり、両者を密に連携させる。